

## 世界一奪還

理化学研究所と富士通が共同開発したスーパーコンピューター（スパコン）「京」が、7年ぶりに世界一になったとの報道は、何かと暗い話題が多い中、久々に明るい気持ちにさせてくれました。日本のスパコンが世界一になるのは、NECが開発した「地球シミュレータ」以来のことです。

スパコン「京」は、平成21年11月に行われた政府の事業仕分けの際、当時担当大臣だった蓮舫氏が「世界一でないといけないのか。2位ではダメなのか」と詰め寄る場面が報道され、一躍有名になりました。

この「2位ではダメなのか」という発言に関して、蓮舫大臣は、マスコミが発言の一部分だけを切り取って流したもので、間違った報道だとマスコミを批判しています。しかし、科学技術というものは、常に先頭を目指して努力していかなければあっという間に、アメリカや中国、韓国などの後塵を拝することになるでしょう。

資源のない我が国が、今後も引き続き豊かな社会を築き、世界に貢献していくためには、科学・技術力の向上と人材の育成は焦眉の急といわねばなりません。その意味からすれば、そもそも「2位ではダメなのか」という発言そのものがダメであり、認識不足といわれても致し方ないと思います。

世界一を達成したスパコンは、1秒間に8162兆回もの計算速度を達成したということですが、今後は更に、1秒間に1京回（1京は1兆の1万倍）を超える計算速度を実現するとしています。その凄さは、全く実感出来ませんが、「世界一奪還」というニュースが、多くの国民に対して夢と希望を与えてくれたことは確かだと思います。

スパコンの世界一奪還について、蓮舫大臣は、極めて明るいニュースで、「オンリーワンを目指して、どうやって将来の明るい夢に具体的につなげていくのかという努力を次は期待したい」と述べたと伝えられています。

蓮舫大臣のおっしゃるように、今後は、スパコンを如何に活用するか、如何に事業化に結びつけ新しい社会の創造に結びつけていくかという、ソフト面が大きく問われることとなりますので、関係者の一層の努力に期待したいと思います。

なお、今回の蓮舫大臣の発言には気になる点が一つあります。それは「オンリーワン」という言葉です。「ナンバーワン」といいにくかったので「オンリーワン」といったのだろうか、つまらぬ憶測をしていますが、私の憶測が間違っていることを期待しています。

スパコンは、科学技術や産業を支える土台といえるものですが、今日、スパコンに限らず最先端の基幹的技術を如何に世界のスタンダードにしていくかということは、産業政策上も大きな課題となっています。少なくとも、オンリーワンを目指しているだけでは、世界のスタンダードにはなり得ないのではないかと危惧します。

勿論、オンリーワンを否定するものではありません。例えば、世界で最も細かい注射針を制作する岡野工業という会社がありますが、この会社は、その分野では明らかにオンリーワンであり、素晴らしい会社です。しかし、スパコンなどの基幹的技術については、世界の産業技術をリードしていくためにも、オンリーワンを超え、世界からスタンダードとして受け入れられることが重要であり、国においては、そうした観点に立って戦略的な科学技術の振興に取り組む必要があると思っています。(塾頭 吉田 洋一)